

岩手県盛岡市（国内 41 例目）の高病原性鳥インフルエンザ発生農場に係る  
疫学調査チームの現地調査概要

令和 7 年 1 月 22 日に実施した現地調査により、以下のことを確認した。

1 基本情報

用途（飼養羽数）：採卵鶏（約 36 万羽）

発生家きん舎の構造：セミウインドウレス鶏舎（20 棟）

発生家きん舎の飼養形態：ケージ飼い（1 区画がひな壇 3 段ケージ 8 列、通路 4 本）

2 農場の周辺環境・農場概況

- ① 当該農場は高台に位置し、周囲には田畑および牧草地が多かった。
- ② 当該農場には鶏舎 20 棟の他、農場事務所及び集卵施設があった。集卵施設と各農場は集卵バーコンベアにより直接つながっていた。当該農場の南側に系列の採卵鶏農場が隣接していた。
- ③ 現地調査時、周辺の草地は 20cm 程度の積雪で覆われており、水鳥の生息・痕跡は確認されなかったが、調査中カラスと思われる野鳥が確認された。

3 通報の経緯・発生時の状況

- ① 発生鶏舎（1.9 万羽、通報時 596 日齢）では、1 日あたりの平均死亡羽数が約 7 羽だったが、1 月 21 日、25 羽の鶏が鶏舎全体に散在して死亡しているのを確認し、家畜保健衛生所に連絡した。同鶏舎では死亡鶏以外、餌のくいつき、活力や産卵率に異常はなかったとのこと。
- ② 調査時、発生鶏舎に死亡鶏が散在して確認されたが症状は確認されなかった。

4 管理者及び従業員

- ① 当該農場では社員 15～16 名が勤務しており、うち飼養衛生管理者 1 名、飼養管理担当者 4 名、鶏糞処理担当者 3 名、集卵施設担当者 7～8 名であった。飼養管理担当者 4 名のうち 3 名がメインの担当者として、6～7 鶏舎ずつ担当を分け飼養管理を行い、毎日死亡鶏の確認を行っているとのこと。
- ② 隣接農場も含め系列農場間の従業員の兼務はないとのこと。

5 農場の飼養衛生管理

- ① 飼養管理担当者は、自家用車で消毒ゲートを通じた後、農場事務所の駐車場に車を止め、農場事務所で衛生管理区域専用の作業着、長靴、手袋を着用する。
- ② 従業員が鶏舎に入る際は、鶏舎入口の踏込み消毒槽及び消石灰槽で靴を消毒し、鶏舎内専用の長靴に履き替えをしているとのこと。
- ③ 飼料運搬及び集卵業者は、車両消毒ゲートに併設された来場者用更衣室で手指の消毒、農場専用の作業着及び長靴の着用を行う。
- ④ 集卵バーコンベアの鶏舎外部分は建屋があり露出しないが、建屋の壁には破損や隙間が認められた。バーコンベアにシャッター等は設置されていなかった。
- ⑤ 給餌及び給水については、鶏舎内のラインを通して自動で行われる構造であった。
- ⑥ 鶏舎内の換気は、妻面のファンで農場外側に排気、天井の吸気パイプと鶏舎の隙間から吸気している。鶏舎側面の開口部はカーテンで常時閉鎖していた。
- ⑦ 飼養鶏への給与水として用いられる水は全て地下水を塩素消毒して用いているとのこと。
- ⑧ 発生鶏舎では、鶏糞が鶏舎下部の床に堆積されるようになっており、約 3 日おきに重機で糞を集め、鶏舎入口で鶏糞運搬用トラックに積み込み、系列の堆肥処理施設へ搬出しているとのこと。

- ⑨ 死亡鶏は毎朝の健康観察時に回収し蓋付き容器に入れた状態で鶏舎内で一時保管後、死亡鶏用トラックで車両消毒ゲート脇に停めた輸送車両まで運び中身だけを積み替えて、化成処理場に輸送しているとのこと。
- ⑩ 廃棄卵は、毎日回収し、蓋つきのポリバケツにいれて、農場内に一時保管後、一定量が溜まった時点で輸送車両に容器ごと積み込み、車両とともに消毒後、系列の鶏糞処理施設に搬出し、密閉型のコンポストで堆肥化処理している。
- ⑪ 鶏舎ごとにオールイン・オールアウトを実施しており、アウト後に鶏舎内の洗浄・消毒を行っているとのこと。
- ⑫ 鶏舎の外壁とコンクリート土台の間に外部につながる隙間が生じている箇所があった。
- ⑬ 集卵施設では、当該農場から生産された卵の全量を洗浄、消毒しており、原卵の出荷はないとのこと。
- ⑭ 飼料の搬入については他農場との積み合わせはないとのこと。
- ⑮ 鶏卵については系列農場全体で取引しているため、同一取引先の輸送車両が系列の他農場と積み合わせることがあるとのこと。

## 6 野鳥・野生動物対策

- ① 調査時、発生鶏舎内には複数のラットサインを認め（かじり跡、糞）、生きたネズミも確認した。月に一度、殺鼠剤や粘着テープによるネズミの駆除を業者に委託しているとのこと。
- ② カラス対策としてレーザー装置の設置等を行っているとのこと。
- ③ カラスとネズミ以外に、ネコ、キツネ、イタチ、カモシカ等を農場内又は周辺でみかけるとのこと。

(以上)